マンガやテレビ、映画などポップカルチャーを紹介する「まんたんプレス」。今回は、1月から放送中のアニメ「あの夏で待ってる」（TOKYO MX、信越放送など）だ。舞台となる長野県小諸市では、町おこしに力を入れている。「王道の青春ストーリー」という同作の魅力に迫った。

【堀池沙知子】

舞台は小諸「あの夏で待ってる」

新たな「王道青春モノ」に

アニメは、高校1年生の海人が、ある晩に8ミリカメラで湖の周辺を撮影していると、突然湖に現れた正体不明の物体を目撃し、大けがをする。次の日になると、海人の体はなぜか無傷で、学校に行くと赤い髪の少女・イチカに一目ぼれしてしまう。すると海人は、ひょんなことからイチカを含めた5人の仲間とともに自主制作の映画を作ることになった。イチカは「行きたい場所がある」という理由で、この地に来たというが、謎の生物?を連れていて、おまけに常識では考えられない発言を連発し、奇抜な料理を作る。そんな若者たちの物語が丁寧に描かれていくオリジナルストーリーだ。

アニメでは、浅間山を望む田園風景や、小諸市街、小諸城跡の懐古園、軽井沢町の各所などが実景のまま登場する。小諸市に舞台を設定した理由は、スタッフに長野県出身者が多かったこと、作品の理想とする風景が同地域に多くあったからという。ロケ地誘致団体「小諸フィルムコミッション」がロケハンに協力し、町を訪れるファンを対象にした企画「なつまちおもてなしプロジェクト」が1日から発足するなど町ぐるみで支援している。

アニメで実在の町をモデルにするのは、埼玉県旧鷲宮町（現久喜市）などを舞台にしたアニメ「らき☆すた」以降、近年盛んになっている。その先駆けといわれるのが、「あの夏で待ってる」と同じ長野県を舞台にしたアニメ「おねがい☆ティーチャー」（02年）で、今作の大澤信博チーフプロデューサーと脚本の黒田洋介さんがかかわっている。さらに監督には、埼玉県秩父市を舞台にしたアニメ「あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない。」などをヒットさせた長井龍雪さんを起用した。

「あの夏で待ってる」の第1話の放送後からネットでは、ファン同士の激論が交わされている。作品の舞台、赤い髪のヒロイン、仲間の配置などが「おねがい☆ティーチャー」を思わせる部分があったためだ。大澤さんは「（二つの作品は）別の作品です。似ているというなら『おねてぃ』への〝思い〟が漏れてしまったのかも」と笑いながら、「10年前と今の青春のあり方は違うし、監督も違う。新たな青春モノを作ろうと意図しました」と明かしている。

実際、恋愛、青春、SFというさまざまな要素を盛り込んだ同作であるが、どこに軸を置くかということで苦労したという。大澤さんは「感情がぶれるのが青春。モヤモヤしちゃう感じがある一方で、作品としては一本にしなくてはいけないところが大変だった」と話した。

アニメは話数を重ねるごとに先の読めない展開になっている。仲間は片思いばかりの関係になっていて、ヒロインのイチカが探している場所、海人の体質、自主制作の映画は完成するのか、不思議キャラの檸檬（れもん）の正体など謎は増えていくばかり。大澤さんは「想像を超える波乱の展開が待ち受けています。アニメを見るときは、登場人物と一緒になって青春を楽しんでほしい」と自信を見せる。

小諸では、アニメの舞台になった地域へ訪れる〝聖地巡礼〟も始まっているという。「あの夏」が新たな観光の目玉になるか、そしてイチカと海人の恋の行方は？「あの夏」の今後に注目だ。

放送は、テレビ愛知で毎週月曜深夜1時半～、TOKYO MXで毎週火曜深夜2時～、信越放送で毎週土曜深夜1時45分～など。

アニメ「あの夏で待ってる」のビジュアル©ーＫｈｉ－Ｋａ／なつまち

マンガやテレビ、映画などポップカルチャーの話題をお届けするサイト「まんたんウェブ」（http://mantan-web.jp/）を中心とした毎日新聞デジタルが展開するプロジェクトです。エンターテインメント動画のサイト「まんたんTV」（http://mantan-tv.jp/）もスタート。さまざまな動画が無料で楽しめます。